

千葉市千城台野鳥観察園の鳥類（1996）

Birds list of Chishirodai bird sanctuary in Chiba city in 1996

和仁道大
Michihiro Wani

キーワード：カモ類、サギ類、センサス、ヨシゴイ、バン

はじめに

千葉県は三方が海で囲まれ高い山がなく、平均高度が49mと日本一平低な地である（前田・浅賀1993）。その中でも千葉市の内陸部は高度50~10mで平坦な下総台地の南部に位置している。下総台地の周辺部は海退の時代の浸食作用によって多数の谷が樹枝状に入り込んで谷津田となった。平均気温は14~15度と穏やかで、年平均の降水量は1500mmで降雪は少ない。このような地形と気候にめぐまれた千葉県は、かつては野鳥の楽園と言われた。しかし、経済の高度成長につれて、都市化の波と共に自然環境は急速に破壊されてきた（沼田・大野1985）。

千葉市の人口は1963年には30万人足らずであったが、1968年には40万人に達し、1971年に50万人、1974年に60万人、1977年に70万人との時期に急速に増加し、現在は86万人となっている（千葉市.1996）。人口増加に伴い、千葉市内陸部周辺では大規模な宅地開発が進められた。その一つとして1965年から造成されたのが、千城台住宅地である。宅地の中で僅かに自然が残された雨水調整池に次第に鳥類が集ってきた。1988年、この調整池の南側と西側に市によって観察用ブラインドが2ヶ所に設けられ、千城台野鳥観察園となった（千葉市.1987&1988）。本報告はこの調査地で定期カウント調査を行い、鳥類相と個体数の変化を明らかにすることを目的とした。

調査地および調査方法

千城台野鳥観察園は千葉市東部の若葉区千城台西に位置している（35°37'N, 140°11'E）。調査地は園内2.5haとその周囲あわせて約3.5haあり、周辺は住宅地、小学校、公園に囲まれている。園内はアシで半分が覆われた雨水調整池と池の中央に半円形に張り出した小高い森があり、「おむすび山」と呼ばれている（図1、図2）。「おむすび山」は高さ14mでアカマツ、スダジイ、コナラなどが繁り、開発以前の状況がやや残されている。池はフェンスで囲まれ、立ち入り禁止になっているが、時々釣り人が侵入するため完全な保護地域にはなっていない。

この調査地で見られる鳥類について全数調査を行った。調査期間は1996年1月から12までであり、調査は月に20回以上、毎朝7時前後に約20分、双眼鏡を使用して行った。1996年の調査回数は315回であった。センサスデータを付表1-12にまとめた。付表1-12から各月の最大値を引用し表1にまとめた。

結果

この調査地で1996年に確認された種数は49種であったが、1989年以来では67種となった。

カモ類ではマガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロの6種が見られた。カルガモは毎月確認され、最大は2月3日の144羽であった。マガモは1月~3月と10月~12月に見られ、最大は2月3日の46羽であつ

た。

サギ類ではヨシゴイ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギの5種が見られた。ゴイサギは毎月見られ、最大は12月18日の23羽であった。ダイサギは1月から6月と12月に見られ、2月1日と3月2,7,12日に最大9羽が確認された。コサギは冬季に多く見られ、最大は2月25日と3月14日の25羽であった。冬季はおむすび山の東側斜面がダイサギとコサギの壠になっており、これらは毎日、日の出直後に飛び立ち夕方戻ってきた。ヨシゴイは6-8月に見られ、7-8月にはつがいと思われる2羽が、時々確認された。アオサギは8-12月に1羽が斜面林でよく休息していた。

その他の水鳥ではカツブリ、カワウ、クイナ、バン、カワセミ、コアジサシなどが見られた。カツブリは毎月見られ、夏季に調査地で繁殖した。1回目の繁殖は6月10日からヒナ3羽、2回目の繁殖は8月23日からヒナ2羽が確認された。カワウは稀に飛来して池に入って採餌したり、木の上で休息していた。クイナは1月11日に、調査地で初めて1羽確認されたが、この1回だけであった。バンは毎月見られ、調査地で繁殖した。1回目の繁殖は7月19日にヒナ4羽、2回目の繁殖は8月10日にヒナ6羽が確認された。カワセミは2月以外の毎月見られたが、特に5-7月はつがいと思われる2羽が確認された。

水鳥以外ではキジバト、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、シジュウガラ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなどが通年よく見られた。コジュケイ、エナガ、メジロ、ホオジロは少なかったが時々見られた。ヤマガラは9月15日に4羽が調査地で初めて確認され、以後10月22日まで時々見られた。

夏鳥ではホトトギス、アオバズク、ツバメ、オオヨシキリなどが確認されたが、そのうち調査地で繁殖したのはオオヨシキリの1種であった。オオヨシキリは池の東西2ヶ所で営巣し、両方の巣でヒナが育った。

冬鳥ではビンズイ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、アオジ、シメなどが見られ、マヒワは11月17日に50羽の群で飛んでいるのが確認された。

考 察

通年見られる鳥はカツブリ、ゴイサギ、カルガモ、バン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの15種で、この内カツブリとバンが1996年に調査地で繁殖した。かつてはそこらじゅうにいたバンは、千葉市内ではだんだん減ってしまった（桑原ら1994、桑原ら1996）。現在では、当調査地はバンの繁殖が確認された貴重な場所である。

夏鳥では調査地の池の半分がアシに覆われているので、ヨシゴイ、オオヨシキリなどが見られるのが特徴と言える。ヨシゴイは今や全国的に稀鳥種と言われているが、1996年は2羽が確認された。1991年頃には調査地でも繁殖していたが（桑原ら1994）、1996年は繁殖は確認されなかった。またオオヨシキリの繁殖地は千葉市内では減少しており、これらの種の繁殖地として狭いが調査地は貴重な環境である。

冬鳥ではマガモ、ホシハジロ、ツグミ、アオジなどがよく見られることが特徴である。千葉県立中央博物館構内の舟田池などでは、コガモやキンクロハジロが多いが（桑原ら1994、桑原ら1996）、ここでは稀である。これは水面が狭いことと、時々釣り人がフェンスをこえて立ち入ることが影響しているとも言える。

カンムリカツブリ、スズガモ、コアジサシなどは東京湾の西浜では沢山見られるが（桑原、和仁1994）、調査地は内陸で西浜から20km離れているため、これらの種は殆ど見られない。カンムリカツブリは調査地のように水面がアシに覆われた狭い所では期待できない。スズガモは過去に1992年11月29日と1994年1月13日に各1羽見られただけで、内陸では稀な種と言える。コアジサシは1996年では6月7,9,23,26日に各1羽が確認された。

個体数でみると、ゴイサギは1992年には100羽以上確認されたが（桑原ら1994）、1994年、1995年は40羽余り（桑原ら1996）、1996年は20羽台となり年々減少している。ホシハジロも1994年2月の29羽をピークに一桁に減少している。コジュケイは1994年7月3日に「おむすび山」で親1羽ヒナ5羽を確認したが（桑原ら1996）、1996年はほとんど見られなかった。これはこの山が小学校の遊び場となって、小学

生がよく出入りするようになったことも要因と思われる。

調査地から1.5km東南にある千城台南調整池では、例年ゴイサギとコサギが繁殖していたが、1996年は繁殖期直前になって突然ゴイサギとコサギの姿が消えてしまった。この理由は不明だが、これが千城台野鳥観察園のゴイサギ減少の一因と言えるかもしれない。湿地で越冬する種が減少しているのは、調査地周辺に湿地環境が少なくなったためと思われる。

千葉市内では希少種といわれるキセイレイは、千城台野鳥観察園では殆ど見られないが、千城台南調整池では1996年10月から12月にかけてが頻繁に確認された。これは雨水が流入口で薄膜上になって流れ、せせらぎに似ているために、清流を好むキセイレイがここに集ってきたと考えられる。

調査地の周辺の畠や草原では、かってヒバリがよく鳴いていたが、1996年は全くヒバリの鳴き声は聞かれなかった。これは最近、畠がどんどん宅地化され、ヒバリが生息出来る場所が減ってしまったためであろう。ヒバリの生息できる保護地区が必要である。

千城台から小倉台にかけての地域は1964-69年に開発されたが、開発前は深く入り込んだ谷津田とアカマツとコナラ、クヌギ、イヌシデなどの落葉広葉樹林からなる二次林に覆われていた。谷津田のいたる所にコサギが生息し、林ではコジュケイが早朝けたたましく鳴き、フクロウも夜よく鳴き声が聞こえて珍しい種ではなかった。現在はすっかり環境が変わり、コジュケイはこの周辺では稀に鳴き声を聞く程度で、フクロウはこの10年間で1989年1月3日に千城台北小学校の裏の林で高木に止まっている姿を一度確認しただけである。このように開発前の状態は殆ど残っていない。その意味でも千城台野鳥観察園は狭くて、住宅地に隣接しているが、上記の通りバンやオオヨシキリが繁殖したり、夏にはヨシゴイが見られるなど、千葉市では非常に貴重な鳥の生息繁殖場所となっている。

謝 辞

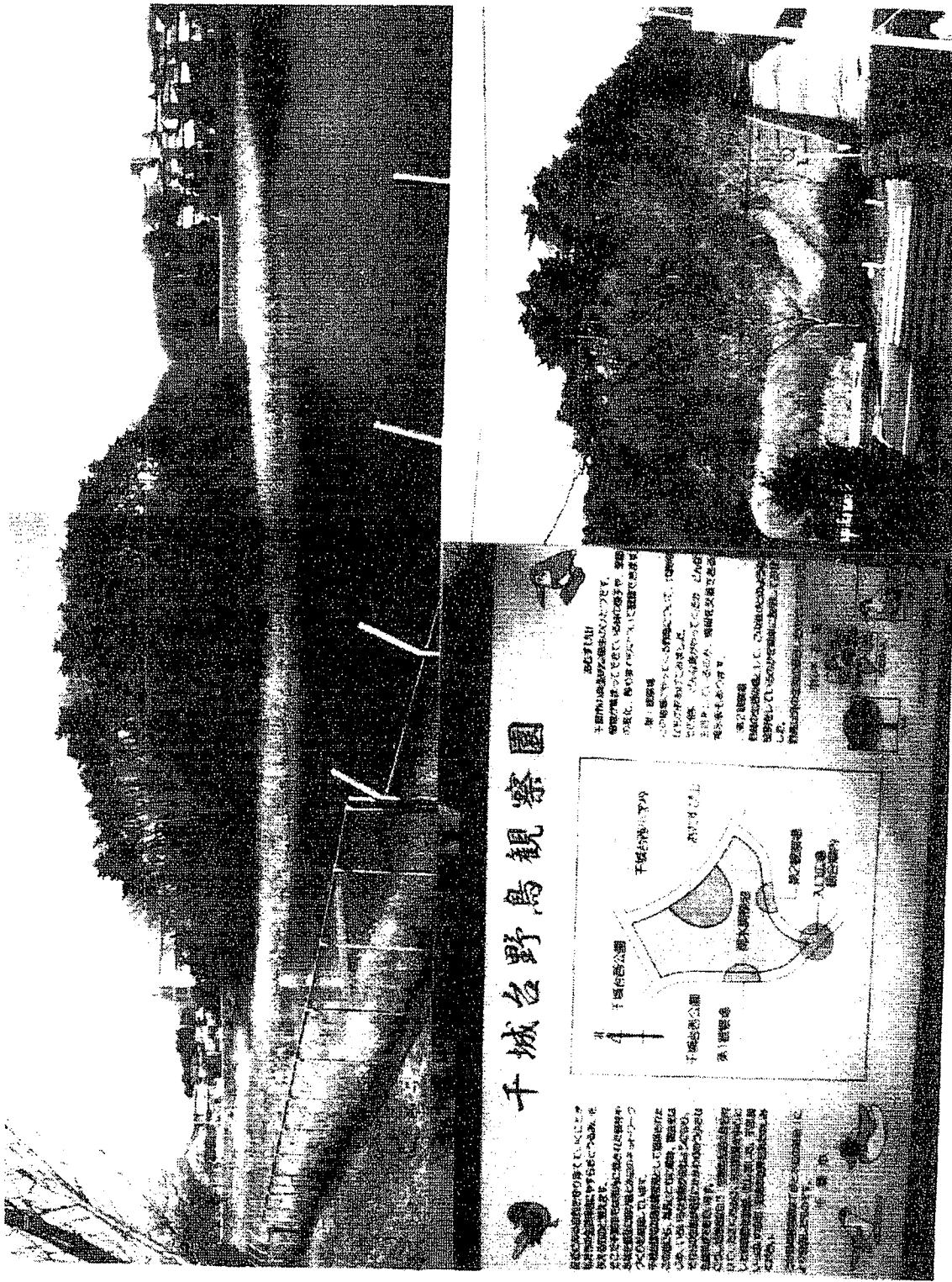
本稿をまとめるにあたり、我孫子鳥の博物館の斎藤安行および千葉県立中央博物館の桑原和之両氏にいろいろと助言をいただいた。ここに深く感謝の意を表します。

要 約

千葉市若葉区にある千城台野鳥観察園で1996年に見られた鳥類の記録をまとめた。1996年までに67種が記録された。千葉市内ではカツブリ、バン、オオヨシキリの繁殖地は少なくなっているが、調査地では1996年も繁殖が確認された。水面ではマガモ、カルガモ、ホシハジロなどのカモ類が越冬した。池際の斜面林ではゴイサギ、ダイサギ、コサギなどのサギ類の跡となっていた。5月から7月にはヨシゴイが2羽確認された。ヨシゴイはひと昔前には日本各地で見られた鳥であったが、近年激減して殆ど見られなくなってしまっており、千葉市内ではほぼ絶滅状態である。千葉市内でヨシゴイが毎夏生息し、カツブリ、バン、オオヨシキリが繁殖するこの調査地は極めて貴重な場所と言える。

引 用 文 献

- 青木正志・和仁道大・原田茂. 1992. 舟田池周辺・青葉の森・千城台野鳥観察園の鳥類調査. 平成3年度標本資料収集動物・植物標本目録: 74-111, 千葉県自然誌資料調査会.
- 千葉市. 1987. ちば市政だより. No.872 (5月20日)
- 千葉市. 1988. ちば市政だより. No.909 (6月1日)
- 千葉市. 1996. 千葉市市勢要覧1996.
- 桑原和之・和仁道大. 1994. カンムリカツブリ一習志野市茜浜の鳥類相. 中央博物館だより No.19, 20: 18-19.
- 桑原和之・和仁道大・木幡冬樹・原田 茂・落合加代子. 1994. 千葉市に生息する鳥類II. 千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告I I : 175-220.
- 桑原和之・和仁道大・落合加代子・原田 茂・綾富美子・石黒夏美. 1996. 千葉市の鳥類1. 千葉市野生動物の生息状況及び生態系調査報告書: 425-465.
- 前田四郎・浅賀正義. 1993. 新千葉地学のガイド. コロナ社, 東京都: 1-3.
- 沼田真・大野正男. 1985. 房総の生物. 河出書房新社, 東京都: 14-15, 158.
- 和仁道大. 1992. 千城台野鳥観察園の鳥類1988-1990年. 千葉生物学会誌 41: 65-69.



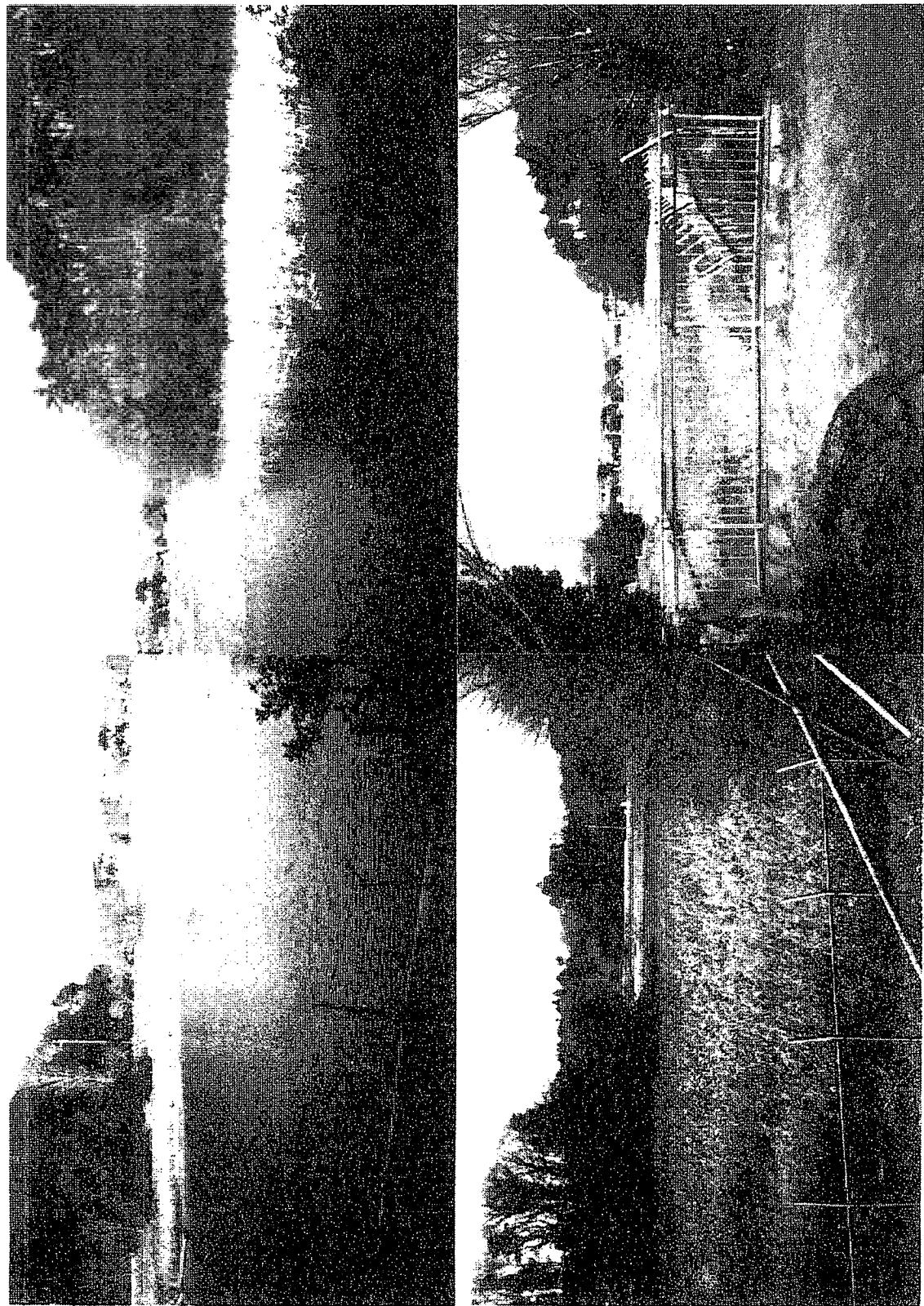


図2 千城台野鳥観察園2 (1996年12月26日撮影)
園西 (上左) おむすび山西面 (上右) 池北部のアシ原 (下左) 南西端から見た園の西側 (下右)

表1 千城台野鳥観察園の鳥類 1996年月別最大数

種名	月ごとに記録された個体の1日の出現最大数を示した。												最大数
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1 カイツブリ	3	2	2	2	1	5	4	4	3	1	1	1	5
2 カワウ													3
3 ヨシゴイ													2
4 ゴイサギ	22	17	14	18	3	3	5	5	6	7	8	23	23
5 ダイサギ	6	9	9	3	1	1						3	9
6 チュウサギ													
7 コサギ	8	25	25	1				1	1	4	14	25	
8 アオサギ								1	1	1	1	1	1
9 オシドリ													
10 マガモ	38	46	32							13	21	30	46
11 カルガモ	80	144	44	10	6	6	9	66	27	28	25	33	144
12 コガモ	1	3	2									1	3
13 ヨシガモ													
14 オカヨシガモ													1
15 オナガガモ	1												
16 ハシビロガモ													
17 ホシハジロ	4	2									3	7	7
18 キンクロハジロ											1	1	
19 スズガモ													
20 コジュケイ							1	1				1	1
21 キジ						1							1
22 クイナ	1												1
23 バン	2	3	6	5	4	6	8	9	8	2	3	2	9
24 コチドリ													
25 クサシギ													
26 イソシギ									1				1
27 ウミネコ													
28 コアジサシ							1						1
29 キジバト	5	4	4	3	4	5	5	3	7	3	2	3	7
30 ツツドリ													
31 ホトトギス							1						1
32 アオバズク						1	1						1
33 カワセミ	1	2	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	2
34 コゲラ	2	2	2	1	2	1	1		1	1	3	3	3
35 ヒバリ													
36 ツバメ				4	6	8	12	20					20
37 イワツバメ													
38 キセキレイ													
39 ハクセキレイ				1			1	1				4	1
40 セグロセキレイ													
41 ピンズイ	2		5	1								2	5
42 タヒバリ													
43 ヒヨドリ	5	4	4	5	8	5	5	3	8	5	5	7	8
44 モズ	1	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	2
45 ヒレンジャク													
46 ジョウビタキ	1									1	1		1
47 アカハラ													1
48 シロハラ													1
49 ツグミ	1	2	3	2	1	1	1	1	2	1	1	10	10
50 ウグイス	2	1	2	1	5	6	6	3	1	2	2	2	2
51 オオヨシキリ													6
52 エナガ		3											7
53 ヤマガラ													4
54 シジュウカラ	1	1	2	2		3	3	4	5	6	5	6	6
55 メジロ	1										5	6	6
56 ホオジロ				1							1	1	1
57 カシラダカ													
58 アオジ	3	2	2	1		1	5	1	4	1	5	5	5
59 カワラヒワ	26	27	3	2	2	1	5	1	4	40	22	3	40
60 マヒワ											50		50
61 ウソ													
62 シメ													
63 スズメ	5	31	8	10	9	6	7	7	4	38	8	8	38
64 ムクドリ	3	8	7	7	5	10	7	31	55	3	12	6	55
65 オナガ					6	2	1		1				6
66 ハシボソガラス	3	2	2	2	1	1	3	5	3	3	3	3	5
67 ハシブトガラス	2	3	1	2	1	1	3	1	3	2	3	3	3
種数	28	23	25	23	22	24	22	20	21	24	29	35	35

付表5 千城台野鳥調査の鳥類（1996年5月）

種名	学名	調査回数												出現回数	出現率(%)	最大数	
		1	2	3	4	5	6	7	8	10	11	12	13				
カツツブリ	<i>Podiceps ruficollis</i>	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	57
カツワ	<i>Phalacrocorax carbo</i>															3	13
ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	3	1	1	1	1	2	1	1	3	1	2	3	1	1	16	3
ゴイサギ	<i>Ncticorax ncticorax</i>															7	30
ダイサギ	<i>Egretta alba</i>															1	
コツサギ	<i>Egretta garzetta</i>																
オシドリ	<i>Ardea cinerea</i>																
オサギ	<i>Aix galericulata</i>																
マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>																
カルガモ	<i>Anas poecilorhynchos</i>	3	6													10	43
コガモ	<i>Anas crecca</i>																
ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>																
ハシビロガモ	<i>Anas acuta</i>																
ホシハシロハシロ	<i>Anas clypeata</i>																
スズガモ	<i>Anas ferrina</i>																
コジケ	<i>Artya fuligula</i>																
キンクロハシロ	<i>Artya marilla</i>																
スズメ	<i>Bambusicola thoracicus</i>																
コジケ	<i>Phasianus colchicus</i>																
クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	4	2	4	3	2	2	2	3	3	4	1	2	1	2	4	1
バン	<i>Gallinula chloropus</i>																
ケサギ	<i>Tringa ochropus</i>																
ソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>																
ウミネコ	<i>Larus schistisagus</i>																
アシジ	<i>Sterna albifrons</i>																
アシジ	<i>Streptopelia orientalis</i>	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20	87
ツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>																
ホトトギス	<i>Cuculus poliacephalus</i>																
カワセミ	<i>Hiuox scutulata</i>																
コゲラ	<i>Alcedo atthis</i>	2														1	4
ヒバリ	<i>Dendrocopos kizuki</i>															2	2
ツツドリ	<i>Alauda arvensis</i>	1	2	6	2	1	1								1	4	
ツツドリ	<i>Hirundo rustica</i>																
ツツバメ	<i>Delichon urbica</i>																
ツツバメ	<i>Motacilla cinerea</i>																
ハセキレ	<i>Motacilla alba</i>																
セグロセキレ	<i>Motacilla grandis</i>																
ビズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>																
タヒバリ	<i>Anthus spinolletti</i>																
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	1	4	1	1	3	2	3	2	1	1	4	1	6	3	1	22
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>																
ヒレンジヤク	<i>Bonbycilla japonica</i>																
ショウビタキ	<i>Phoenix cururus auratus</i>																
カラ	<i>Turdus chrysolaus</i>																
シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>																
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>																
ツグミ	<i>Cettia diphone</i>																
ウグイス	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>																
オシキ	<i>Aegithalos caudatus</i>																
オナガ	<i>Parus varius</i>																
ヤマガラ	<i>Parus major</i>																
シジュウカラ	<i>Apalopteron familiare</i>																
メジロ	<i>Emberiza ciodes</i>																
ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>																
カジラダカ	<i>Emberiza spodocephala</i>	1														1	13
カツラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>																
マヒワ	<i>Pyrhula pyrrhula</i>																
ウツ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	6	5	5	9	2	4	4	6	2	2	1	3	2	4	3	5
スメ	<i>Passer montanus</i>	6	1	2	1	2	3	1	1	3	2	6	2	2	3	1	6
ムクドリ	<i>Sturnus cinereus</i>																
オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ボンボンガラス	<i>Corvus corone</i>	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	10	10	11	9	8	9	11	9	7	8	9	11	7	12	6	10
計																	22

調査回数23回のデーターを調査日ごとに記録された個体数を示す。

